

0-2 「探検準備をしよう！」 知っておこう！探検のいろいろ

「メディアのチカラ」を身につけよう！

『わくわくメディア探検』を体験することで、子どもたちが基本的な「メディアのチカラ」を身につけることを期待しています。「メディアのチカラ」は、図2に示すように「わかる」「つかう」「つくる」「つたえる」の4つの段階における能力となります。

第1段階「わかる」

メディアに興味・関心をもつことで、「メディアの受け手」としての気づきをうながします。メディアをあるがままに受け入れつつ、メディアの特性を理解する能力を育てると同時に、メディアを批判的に受けとる能力の育成も目指しています。メディアについて「知る」ことから「わかる」までの過程です。

第2段階「つかう」

「メディアの使い手」として、情報を収集し、取舍選択する方法を学びます。メディアを活用する能力、メディアを選択する能力、さまざまなメディアを組み合わせる能力の育成を図ります。情報を「つかう」「みわける」「えらびとる」過程となります。

第3段階「つくる」

「メディアの作り手」として、表現方法を学びます。メディアを構成する能力、メディアを制作する能力の養成が目的です。伝えたいメッセージを、自分なりに「まとめる」「つくる」過程です。

第4段階「つたえる」

「メディアの送り手」として、実際に相手にメッセージを発信する方法を学びます。自分から伝える能力、相手の意見や感想を聞く能力という、双方向のコミュニケーション能力の育成を目指しています。「つたえる」「きく」「わかりあう」過程になります。

このような4段階が図2のように循環していくなかで、メディアリテラシーは高まっていきます。この循環は、まず「受け手」からはじめることに意義があります。なぜなら「メディアリテラシー」では、「メディアを主体的に読み解く能力」「メディアにアクセスして活用する能力」「メディアを通じてコミュニケーションを創造する能力」の3領域のなかでの「読み解き」が基本となり¹⁴⁾¹⁵⁾、この「わかる」基礎があって始めて、メディアの選択・活用能力や、表現力、制作力が育ってくるからです。「わかる」から「つかう」「つくる」「つたえる」まで到達し、一巡してまた「わかる」にもどったときには、最初の「わかる」より、メディアリテラシーの発達段階がレベルアップした「わかる」段階となり、らせん状に理解が進んでいきます。

保育・教育との関係▶『わくわくメディア探検』においてつちかわれる「メディアのチカラ」は、みずから考え、学ぶことを通じて獲得される力であり、保育・教育の現場で重視されている「生きる力」の基盤となる思考力・判断力・表現力と根本的に同じのものです。さらに、2008年に改定された「保育所保育指針」、同年に改訂された「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」において、発達や学びの連続性をふまえた幼保小連携が強化されています。この発達や学びの連続性こそ、「メディアのチカラ」の循環に当てはまり、『わくわくメディア探検』で実現していけるのです。

具体的には、『わくわくメディア探検』の探検を実践することで、保育・教育の現場では、子どもたちに次の領域で発展を期待できます。

「人間関係」の領域では、各探検を最後までやり遂げることで、達成感が育まれます。自信をもって自分の発表をすることで、自尊心や有能感が育成されます。各探検で協同的なメディア遊びをすることで、協同的な学びへ発展していきます。

「環境」の領域では、メディアからの情報に対して、疑問をそのままにせず、自分なりにふしぎだと思ふ点を見つけることで、思考力の芽生えにつながります。

「言葉」の領域では、探検で体験したことをことばにして表現します。それは、自分の気持ちをことばであらわすことに加えて、自分の考えをことばにしてあらわすことへと発展していきます。また、友だちと一緒に探検活動をしていくことで、友だちの話を聞き、自分のことばで伝え、お互いにことばによる伝え合いができるようになります。

「表現」の領域では、各探検で「表現する過程」を大切に、試行錯誤する楽しみを味わっていきます。

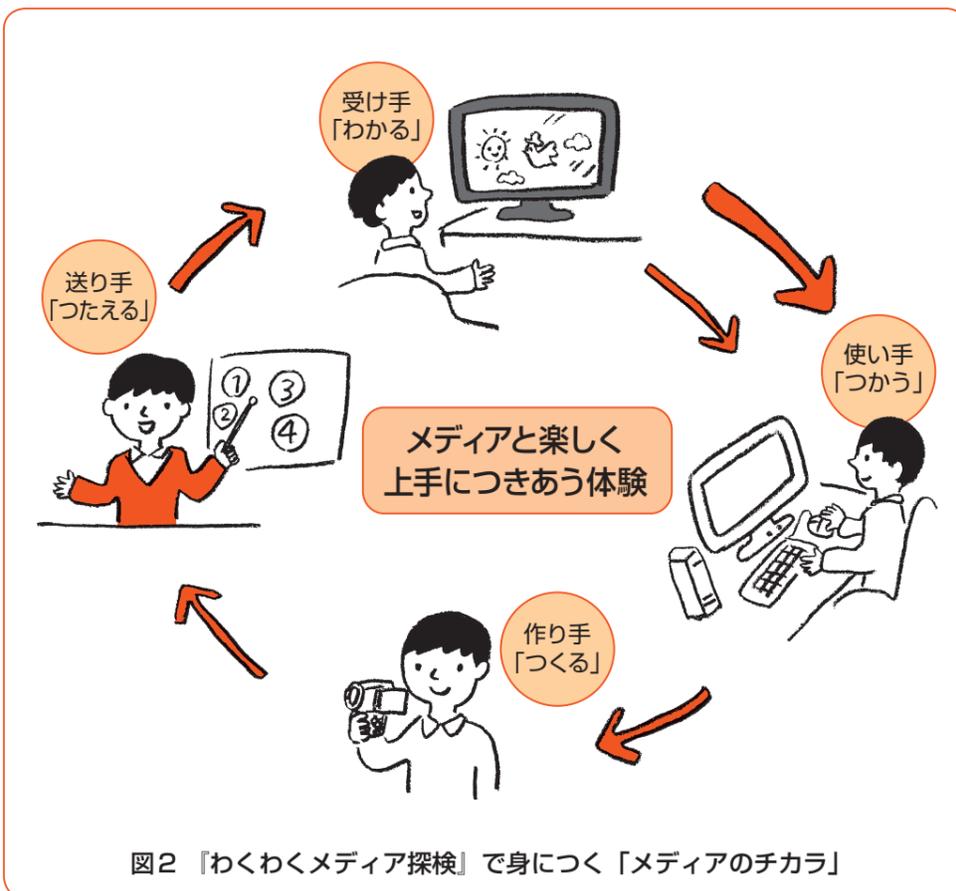


図2 「わくわくメディア探検」で身につく「メディアのチカラ」